

特集

健康への啓蒙活動としての健康フェスティバル

伊藤 英史

純真学園大学 保健医療学部 医療工学科

A health festival for spreading health awareness

Hideshi ITOH

Department of Medical Engineering, Faculty of Health Sciences, Junshin Gakuen University

【要旨】 本学では2016年より医療系大学としての特徴を活かして地域住民に対する健康への啓蒙活動の一環として健康フェスティバルを秋に開催している。本フェスティバルは本大学の看護学科、放射線技術科学科、検査科学科、医療工学科に加えて短大の食物栄養学科の5学科の教員と学生による企画を元を実施している。内容は、身体測定、骨密度測定、頸動脈エコー検査、経皮的動脈血酸素飽和度測定、自動体外除細動器の使用方法の説明、食生活チェック、漢方ハーブティーの提供、医師の健康相談などである。2016年は200名の参加、2017年は262名の参加があった。健康日本21による国の基本方針を背景に、本学では、地域住民が健康で豊かな暮らしを営むことができるように地域貢献活動の一つとして本活動を今後も継続していく予定である。

Abstract: Since 2016, this university has made use of its unique features as a health sciences school to host a fall health festival for promoting health awareness among local residents. The festival is organized and run by instructors and students from five academic departments: the nursing, radiologic technology, laboratory sciences, and medical engineering departments of this university, as well as the junior college nutrition department. The festival offers body measurements, bone density measurements, carotid ultrasound examinations, percutaneous oxygen saturation measurements, explanations regarding the use of an automated external defibrillator, eating habit checks, traditional Chinese herbal health teas, and physician consultations. In 2016, 200 people participated, while 262 participated in 2017. In the context of the country's underlying principles of "Healthy Japan 21," we plan to continue this activity as a contribution by which to help local residents lead rich and healthy lives.



伊藤 英史

【はじめに】

平成24年に、厚生労働省から平成25年度から平成34年度までの「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次））を推進するための基本的な方針」が表明された⁽¹⁾。本方針、第一の一において「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が掲げられ、我が国の高齢化の進展及び疾病構造の変化を踏まえ、生活習慣病の予防、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上により、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の延伸を実現することが示されている。また、第一の四では「健康を支え、守るための社会環境の整備」が掲げられ、個人の健康は、家庭、学校、地域、職場等の社会環境の影響を受けることから、社会全体として、個人の健康を支え、守る環境づくりに努めていくことが重要であり、行政機関のみならず、広く国民の健康づくりを支援する企業、民間団体等の積極的な参加協力を得るなど、国民が主体的に行う健康づくりの取組を総合的に支援する環境を整備することが示されている。

このような国の方針を背景に、医療系大学である本学では地域住民に対する健康への啓蒙活動を通して地域貢献することを目的として、2016年から毎年秋に健康フェスティバルを開催している。本フェスティバルは2015年の11月、福岡市南区薬剤師会主催の「みなさんの健康応援フェア」に本学の看護学科

と検査科学科そして、純真短期大学の食物栄養学科が参加・出展したことに端を発する⁽²⁾。

本稿では本学の実施している健康フェスティバルの取組みについて紹介し、本活動がどのように地域住民の健康問題に対する啓蒙活動へとつながっていくのかについて思案する。

【健康フェスティバルの内容】

本学の最寄り駅である西鉄大牟田線西鉄大橋駅西口広場（福岡市南区）において、健康フェスティバル2016（平成28年10月16日（日）10:00-15:00）、健康フェスティバル2017（平成29年10月7日（日）10:00-15:00）を開催した。内容は本学の看護学科、放射線技術科学科、検査科学科、医療工学科及び本短期大学の食物栄養学科からそれぞれの学科の特徴を生かした内容を検討し出展した。看護学科は、血圧・身長・体重・BMI（body mass index: 体格指数）の測定を学科の学生中心に実施した（図1）。放射線技術科学科は骨密度測定を実施した（図2）。検査科学科は頸動脈エコーと血管年齢チェックを実施した（図3）。医療工学科は経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）測定と自動体外式除細動器（AED）の使い方、ならびに心臓マッサージの方法について実演指導した（図4）。食物栄養学科は自家製味噌の豚汁を提供し、美味しく、バランスよく、食を楽しむための食生活チェックを実施した（図5）。また、漢方薬の研究を実施している教員から体調に合わせた漢方ハーブティーを提供した（図6）。全ての検査が終了次第、本学医師による健康相談を実施した（図7）。2016年は200名、2017年は262名の参加があった（駅前イベントのために正確な来場者の数は把握することが困難であったが、イベントの受付で把握できた人数を提示した）。本イベントへの来場者には概ね好評で、年配の方が多く、日頃から自らの健康への関心を高めるきっかけとなっていると思われた。一方で、提供できるサービスの限界により骨密度検査や超音波検査に時間を要するために待ち時間が多いという欠点と整理券を配布したが来場した全ての参加者にサービスを提供できなかったという問題点があった。今後、提供するサービスの充実を図るためにも検査機器の台数を増やしたり、スタッフ数を増加させたりすることによって改善していきたいと考えている。

【地域に開かれた大学としての役割】

2015年に政府が進める地方創生政策の一つとして「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」が打ち出された。「知の拠点としての地方大学強化プラン」など地方大学等の活性化が柱の一つに位置付けられている⁽³⁾。また、地域に「しごと」をつくり、大学、研究機関、企業等の連携によるイノベーションの創出を図り、地域産業とその担い手をつくること大学等をつくること提言されている⁽³⁾。しかしながら、地域に仕事を創り出すほどのイノベーションを起こすことは医療系単科大学としての本学のみでは困難であることが推測される。では、本学でも可能な地方創生に対する貢献とはどのようなことになるだろうか？

本学は医療技術者を育成することに重点をおいた医療系単科大学である。そのために、多くの教員が少なからず大学病院や国公立の総合病院で勤務経験のある教員が多い。また、教育に必要な検査・治療機器などについても最新の設備を整えている。これらの財産を本学学生の教育はもちろん、地域住民に活用してもらう最善の策について検討した結果が、本健康フェスティバルである。本フェスティバルを通じて、地域住民の健康に対する関心を高めるための啓蒙活動を実施することによって、心身ともに健やかな住民が生活する地域の場をつくりあげる貢献をしたいと考えている。本学内には附属病院といった医療施設自体は併設していないために実際の診療を提供することは困難である。しかしながら、地域社会とのつながりの中で、また、多くの学生も地域社会で生活することから地域自体の活性化につながる事が本学としての「地域に開かれた大学」としての役割であると思われる。



【図1】 看護学科による血圧測定



【図2】 放射線技術科学科による骨密度測定



【図3】 検査科学科による頸動脈エコー検査



【図4】 医療工学科による経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO2) 測定



【図5】 食物栄養学科による豚汁の提供と食生活チェック



【図6】 心身の症状に合わせた漢方ハーブティーの提供



【図7】 医師による健康相談

【おわりに】

厚生労働省の28年度の統計によると日本国民の平均寿命は男で80.98年であり、女で87.14年と報告されている⁽⁴⁾。日本は世界の中でも長寿国であり、なおかつ現在は少子高齢化の時代へと突入している。このような時代に、ただ長寿であるだけでなく、健康で豊かな人間としての生活を営むことが重要である。医療系大学の本学は地域住民が健康で豊かな暮らしを営めるような支援をしながら、地方創生に対する地域貢献活動として本健康フェスティバルを継続していきたいと考えている。

【参考文献】

1. 厚生労働省ホームページ. 国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針, 2017-11-16
http://mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html
2. 井手口忠光. 「健康フェスティバル」『純真の翼』 純真学園大学, 福岡, 35-36, 2017.
3. 中村高昭. 地方創生における大学の役割－期待の一方、厳しさを増す大学を取り巻く環境－. 立法と調査, 12 (371), 30-40, 2015
4. 厚生労働省ホームページ. 平成28年度簡易生命表の概況, 2017-11-20
<http://mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life16/index.html>